

平成29年度 倫理審査委員会

【第1回 倫理審査委員会 平成29年6月29日（木）】

申請番号 28-24
申請者 循環器科部長 天田 浩司
申請課題 未診断疾患の遺伝学的検査による確定診断：肥大型心筋症

研究概要： これまで臨床検査及び推定される遺伝子の検索によって原因が同定できなかった疾患の確定診断のため、遺伝学的検査を行う。

判定： 「承認」

申請番号 29-01
申請者 呼吸器科医師 内田 そのえ
申請課題 喀痰より *Mycobacterium* *mossiliense* が同定された15症例の臨床的検討

研究概要： 近年着目されている *Mycobacterium* *mossiliense* の当院での発生状況に関する後ろ向き研究

判定： 「承認」

申請番号 28-21
申請者 医療安全管理室 主任臨床工学技士 阿部 聖司
申請課題 気管カニューレの固定に関するプレートの製作、臨床試用

研究概要： 気管カニューレの固定を安定させるためのプレートを患者に装着させる

判定： 「承認」

申請番号 28-22
申請者 神経内科医師 中村 憲一郎
申請課題 運動障害を来す未診断難治性遺伝性神経・筋疾患の原因遺伝子の解明

研究概要： 難治性遺伝性神経・筋疾患の原因遺伝子の同定に当たり、遺伝子解析結果の解釈においては、臨床症状・所見との関連を解析することが不可欠である。当院生殖・遺伝科及び臨床研究部では遺伝性疾患の診療及び遺伝子検査を行っておりこれまでに多数の診断実績がある。従って、多数の難治性神経・筋疾患の症例の蓄積があり、遺伝性疾患の診療及び遺伝子診断を行っており、さらに次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析が可能である当院で本研究を行うことに大きな意義がある。
通常の診療の範囲で確定診断が困難な、進行性の運動障害を来す難治性遺伝性神経・筋疾患について、病態を解明して治療法を開発するため、原因遺伝子を明らかにすると共に正確に診断できる遺伝子診断法を開発することである。

判定： 「承認」

申請番号 28-23
申請者 理学療法士 加藤 浩章
申請課題 人工呼吸器装着 ALS 患者の肺コンプライアンスに関する前向き研究

研究概要： ALS 患者の動的肺コンプライアンスの計測を行い、医学研究を実施。

判 定： 「承 認」

【第2回 倫理審査委員会 平成29年7月26日(水)】

申請番号 29-02
申請者 スポーツ医学センター センター長 松田 貴雄
申請課題 身体的障がいをもつアスリートの(エネルギー不足を評価するための)体組成評価システムの開発

研究概要: 当研究はスポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」事業、「成長期と身体的障がいをもつアスリートのスポーツ障害予防システムの開発」の一環として行う調査研究である。
女性アスリートの3主徴の原因としてエネルギー不足が取り上げられ、その評価が重要であるが、障がいをもつアスリートでは体重測定すらままならないことがある。アスリートのエネルギー不足の評価に除脂肪体重が重要とされ、海外では評価されているが本邦では利用されていない。除脂肪体重はインピーダンス法にて臥位でも測定できることから、障がいをもつアスリートでも測定可能である。これを利用して除脂肪体重による管理を一般化する目的で障がいの部位の異なるパラリンピックアスリートについて他の体組成の測定方法と比較してインピーダンス法による体組成データの妥当性を検証する。

判定: 「承認」

申請番号 29-03
申請者 スポーツ医学センター センター長 松田 貴雄
申請課題 女性アスリートのエネルギー不足・ホルモン不足の評価に用いられる検査データの調査研究

研究概要: 当研究はスポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」事業、「成長期と身体的障がいをもつアスリートのスポーツ障害予防システムの開発」の一環として行う調査研究である。
女性アスリートにおいて女性アスリートの3主徴が提言され、エネルギー不足・ホルモン不足がパフォーマンス発揮に関与が考えられている骨粗鬆症に影響があるとされているが、女性ホルモン以外でこれまで成長スパート周辺の女性アスリートであまり検討されていないエネルギー不足・ホルモン不足の指標について検討を行う。

判定: 「承認」

【第3回 倫理審査委員会 平成29年8月29日（火）】

申請番号 29-04
申請者 スポーツ医学センター 副センター長 馬見塚 尚孝
申請課題 トップアスリートの別府温泉利用によるリハビリ効果の検討

研究概要： 当研究は別府市より委託を受けアスリートのリハビリに対する温泉の効能について検討する。期間中活動量計を装着してそのデータを解析する。期間の前後で生理学的検査、血液検査を行う。

判定： 「承認」

申請番号 29-05
申請者 神経内科医師 中村 憲一郎
申請課題 神経・筋疾患の予後に関連する因子を明らかにする研究

研究概要： 独立行政法人国立病院機構西別府病院（以下、本院）神経内科では、神経難病を中心に神経・筋疾患の診療を専門的に行っている。神経・筋疾患の多くは根本的治療がなく難治性であり、少しでもよりよい治療法の開発やケアの向上が望まれている。病気の予後と関連する因子が明らかになれば、よりよい治療法の開発やケアの向上に貢献できる可能性がある。神経・筋疾患は希少疾患が多く、過去の情報が少ないため、患者一人一人の診療情報が貴重な資源である。
本研究の目的は、本院神経内科で診察を行った神経・筋疾患の症例について、診療情報を解析することにより、神経・筋疾患の予後と関連する因子を明らかにすることである。

判定： 「承認」

申請番号 29-06
申請者 リハビリテーション科 理学療法士 加藤 浩章
申請課題 長期人工呼吸器装着 ALS 患者に対する肺コンプライアンス測定

研究概要： ALS 患者の動的肺コンプライアンスの計測を継続し、患者の呼吸機能（コンプライアンス）を評価したい。状況に応じて研究発表にデータを使用する。

判定： 「承認」

【迅速審査 平成29年9月26日】

申請番号 29-08
申請者 内科部長 瀧川 修一
申請課題 滞在結核感染の実態に関する研究

研究概要： 日本における潜在結核感染治療の実態を検討する。

判定： 「承認」

申請番号 29-09
申請者 神経内科部長 後藤 勝政
申請課題 筋萎縮性側索硬化症患者の前頭側頭葉変性症の進行と課題刺激負荷時の脳血流量との関連

研究概要： 筋萎縮性側索硬化症（ALS）は、従来、末期まで知的機能は保たれ、認知機能障害を伴わないとされてきた。しかしながら近年、ALSにおいて認知機能障害が少なからず出現することが指摘されるようになってきており、ALSにおける前頭側頭葉変性症が問題となっている。前頭側頭葉変性症では前頭側頭葉の脳血流量低下や病理変化が指摘され、ALS重症度の進行とともに前頭側頭葉変性症の比率が増加するとも言われている。

近年、近赤外光（Near Infrared Spectroscopy:近赤外分光法、以下NIRS）を利用して、神経活動に伴って生じる局所脳血流量を測定し、その反応を臨床的応用につなげる研究が進められ、近赤外光を用いることから安全性が高く、身体侵襲性もなく、簡便で前頭側頭葉機能の評価にも有用であるとされている。ALS患者の前頭側頭葉機能の評価にNIRSを活用することができればALS患者にとって有益である。そこで、ALS患者の脳画像等における脳萎縮程度の高度、低度の2群のNIRSによる脳血流量を比較し、さらにそれらがALS重症度や認知機能障害とどのように関連するのか検討することを目的とする。

判定： 「承認」

【第4回 倫理審査委員会 平成29年9月29日（金）】

申請番号 29-07
申請者 呼吸器内科医師 内田 そのえ
申請課題 高齢者結核の予後因子の臨床的検討

研究概要： 高齢者結核における予後因子を明らかにするため。

判定： 「承認」

【第5回 倫理審査委員会 平成30年2月9日（金）】

申請番号 29-10

申請者 療育指導室長 能美 禎夫

申請課題 「短期入所」利用における家族への満足度調査

研究概要： 当院の短期入所利用者家族を対象に、利用に関する満足度調査を行うことで、サービスの質的向上を検討する。

判定： 「承認」

【迅速審査 平成30年2月16日】

申請番号 29-11

申請者 血液内科医師 安部 美由紀

申請課題 ADAMTH13 を中心とした血栓性微小血管障害症のコホート研究

研究概要： 日本国内の TTP や TMA の患者の診断時・および治療による変化を多数例で解析、これらの疾患の病態を明らかにし、治療法の有効性を検討する。

判定： 「承認」